

毎月勤労統計調査からみる福井の「賃金」

最近「賃金引上げ」という言葉を頻繁に目にします。
私たちの生活を支える賃金の動向は今どうなっているのでしょうか？

01 名目賃金と実質賃金

賃金について正しく把握するため、**2つの賃金**の動きをみていきます。

●**名目賃金**:労働者が実際に受け取る賃金(現金給与総額)

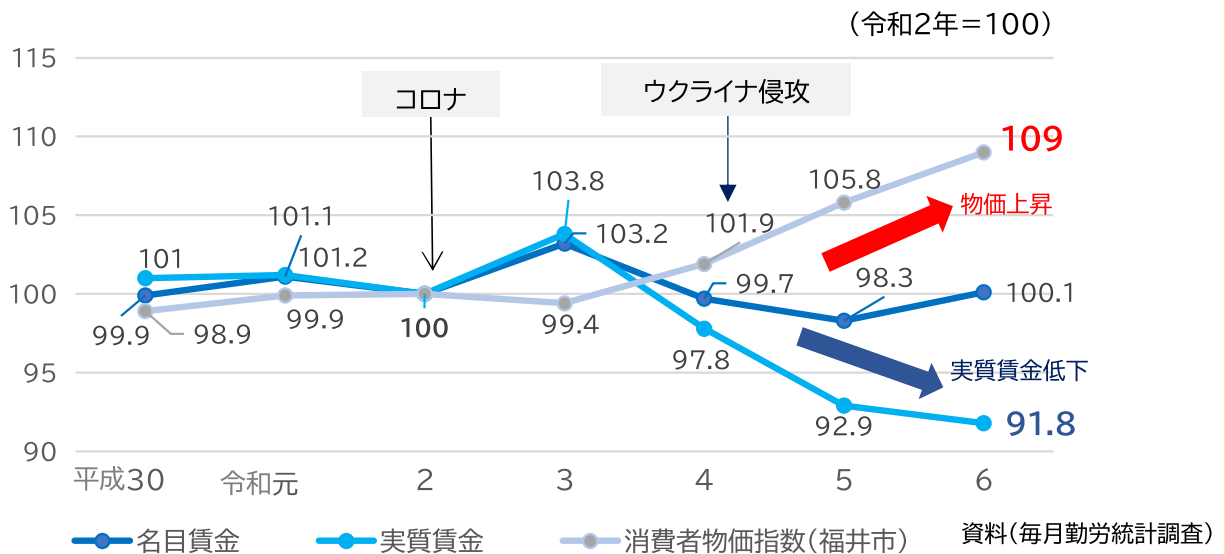
●**実質賃金**:名目賃金に物価の影響を反映した賃金

令和7年4月の福井県の賃金 名目賃金:275,271円 実質賃金:244,685円

※実質賃金=名目賃金÷消費者物価指数×100



02 福井県の賃金指数の推移



上のグラフは令和2年=100として福井県の名目賃金、実質賃金、物価を指数(※1)化し、平成30年～令和6年の推移を示したものです。

名目賃金指数は平成30年～令和2年は100前後で推移し、令和3年には103.8と大きく上昇しています。令和4、5年は世界的な原材料価格の高騰、ロシアのウクライナ侵攻、円安などのコスト増要因が重なり、本県の名目賃金は低下に転じましたが、令和6年には再び上昇に転じています。

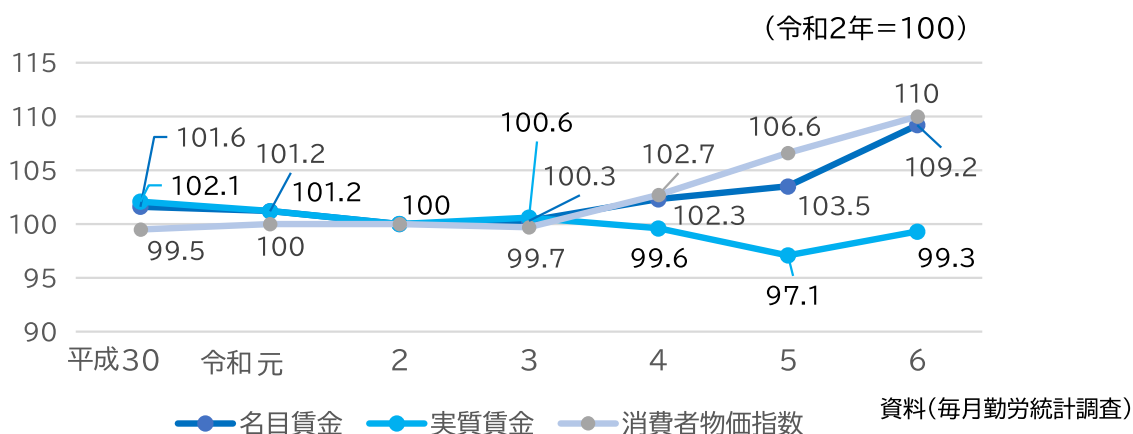
これは、少子高齢化に伴う労働力不足が深刻化する中で、企業に人材確保を目的とした賃上げの動きが広がった(※2)ことが大きな要因の一つと思われます。

しかし、実質賃金をみてみると、令和3年以降は低下し続け、令和6年には91.8となりました。これは令和3年後半から物価が上昇し、その後上昇率の拡大が続いており、名目賃金の上昇が物価の上昇に追いついていない状況であると考えられます。

※1 ある基準を定め、その基準値を100として、基準値からの変化を示す数値。

※2 令和6年の福井県の賃上げ率平均は集計がある平成3年以降で最も高い水準となる6%
(出典:連合福井の春闘中間報告(R7.4.8発表))

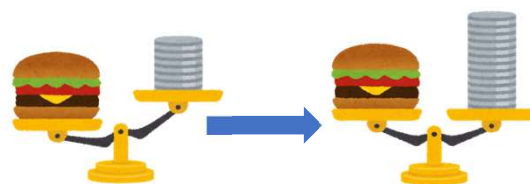
03 全国の賃金指数の推移、福井県との比較



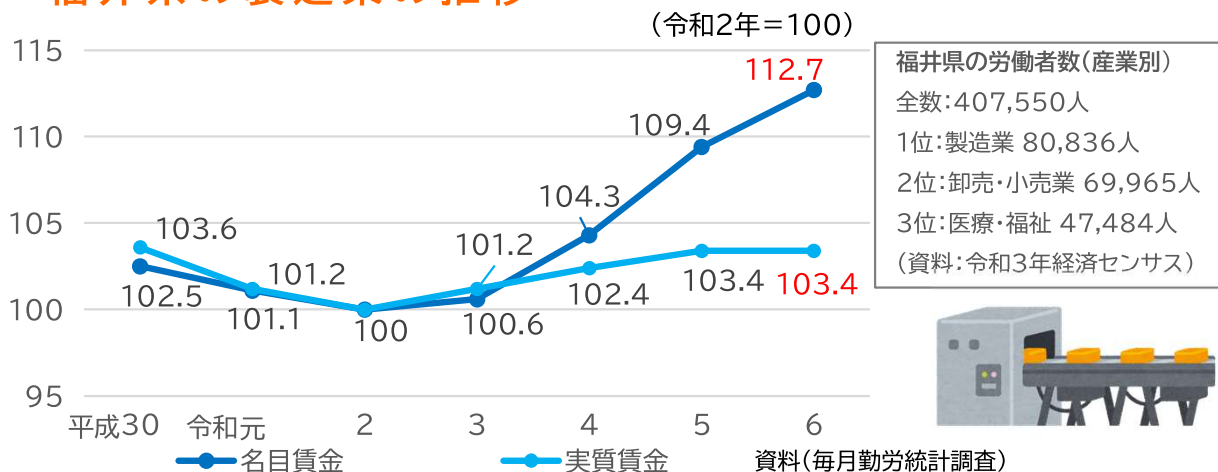
次に全国の指数の推移を示したグラフです。
 名目賃金指数は令和3年までは100前後で推移しており、令和4年から上昇し、令和6年には109.2という高い値になっています。
 実質賃金指数は令和4、5年は物価上昇の影響で福井県と同様に低下していますが、令和6年には上昇に転じています。

令和6年の福井県と全国の数字を比較すると、全国は福井県より実質賃金指数が高くなっていますが、令和7年1月～4月の全国の

実質賃金指数はいずれの月も対前年比でマイナスとなっています。令和7年も引き続き実質賃金が増えるかについては注視していく必要があるでしょう。



04 福井県の製造業の推移



上のグラフは福井県で一番労働者数が多い製造業の名目賃金指数、実質賃金指数の推移です。

令和4年以降、名目賃金指数は大幅に上昇し、実質賃金指数も名目賃金上昇の影響で緩やかな上昇傾向にあります。

また、全国の令和7年1月～4月の実質

賃金指数の対前年比はいずれの月もマイナスでしたが、福井県令和7年1月～4月の実質賃金指数の対前年比は2月以外プラスとなっています。これらの動きが今後も続いていけば福井県全体の実質賃金の押し上げに寄与することが期待できます。

今後も福井県の賃金の動きに注目していきたいと思います。

福井県の賃金等に関する情報は下記リンクより「毎月勤労統計調査」の結果をご覧ください。

■福井県毎月勤労統計調査 | 福井県ホームページ

